

三保海浜マラソン in 旧三保飛行場



～三保半島の魅力を発信し、
更なる発展を目指す～

11 住み続けられる
まちづくりを



キーワード

スポーツ・世界遺産・企業(商店)・行政・歴史文化・ボランティア・景観維持

○取り組んだきっかけ

私は自分が暮らしている場所「三保」にとっても魅力を感じており、地域のボランティア活動に参加してきた。三保で活躍する多くの方々に会い、自分にできる貢献活動を考えた。私は部活動でマラソンやトライアスロンにも取り組んでいたのですが、部活動で得た経験や人脈とボランティア活動で得た力を頼りに、マラソン大会を企画した。

○具体的な内容

大会コースは砂浜と飛行場の滑走路を含むコースで、大人が2.5km・5km 子供が1km を走る。コースの半分を占める旧三保飛行場は、昨年度から静岡県直轄になり、今年に創設100周年を迎えた。また、コースの中にある清水灯台は昨年度に、市の重要文化財に指定された。旧三保飛行場や清水灯台の景観は三保松原付近のエリアと比較すると認知度は低いものの、海岸から望む富士山や清水港、駿河湾は観光資源となりうる。本大会は単なるマラソンの競技大会に留まらず、この静岡市の誇るべき景観を周知し、観光資源としての利活用を目指すことが発起意図の一つであった。マラソン大会として、コースから灯台を望める大会は珍しく、飛行場を走ることのできるコースも珍しい。このロケーションが静岡市内外からの参加者より好評を博した。また、大会開催時は、参加者に配布する冊子プログラムや会場MCなどで、旧三保飛行場や清水灯台の歴史も紹介し、旧三保飛行場や清水灯台の文化的価値も紹介した。

旧三保飛行場は2021年度まで日本赤十字社の管轄であり、人が立ち入ることはできなかった。しかし、昨年度から静岡県の管轄となり、許可を得たうえでイベント利用が可能となった。飛行場跡地は全国的にみて少なく、放置してしまうと植生遷移により失われ、不法投棄場所となってしまうことが考えられた。実際、イ

○活動の目的

- マラソン大会を通して、三保半島の魅力(歴史、文化、景観、企業、商店、ボランティア団体)の発信を行う。また、景観の維持には保全活動が必要であることを周知する。
- スポーツを行うことによって、心身の健康や、スポーツ文化の価値を参加者及び、来場者に周知する。
- マラソン大会を通して、参加者及び、来場者のコミュニティ形成を狙う。
- 小学生がマラソン大会に参加する機会を設ける。

イベント開催前の会場の清掃活動時には多くのゴミが捨てられていた。新たな活用法を見出すことで、滑走路の価値を発信し、景観を守るべき重要な場所として参加者に認識して頂いた。

大会後半では、大会の参加者が会場付近の松原の保全活動を行った。大会の会場として場所を利用するだけではなくその景観を維持するためには、放置するのではなく、人の手を入れた保全が必要であることを周知し能動的な参加を求めた。保全活動時は、一般社団法人三保松原3Ringsプロジェクトの協力をえた。参加者や運営の方々の交流する場となり、地域のコミュニティ形成の促進になった。イベントの運営スタッフのうち、40人中12人は学生であり、大会への参画が社会性や企画手法を学ぶ機会となった。また、参加者向けに抽選会も行い、地元店舗から協力を仰ぎ、地元店舗の商品券や物品を賞品とした。大会の参加者が三保地域の店舗を知り利用するきっかけを作り、地域経済の促進を狙った。

○期待される効果

- 三保半島の魅力(歴史、文化、景観、企業、商店、ボランティア団体)の発信により、更なる活動の広がりが期待できる。
- 参加者にスポーツの価値を感じてもらい、地域スポーツの賑わいが期待できる。
- 大会で形成されたコミュニティによって地域での結束や団結が高まることが期待できる。
- 大会に参加した小学生が将来、地域スポーツを盛り上げる人材になることが期待できる。



社会環境学部 3年

三保海浜マラソン実行委員会

委員長 宮城嶋開人



連携先:

静岡県/静岡市

地元企業(商店)

JALみず、エスパルス、アラジンなど 14件

三保松原3RingsPJ(保全活動団体)

その他(知人)

三保海浜マラソンの
SNSはコチラ↓



Facebook



@MIHO.RUNNING_